子どもビール

近藤　朗

居酒屋で一献傾けていると、四歳くらいの男の子と若いお母さんが入ってきました。席に着く間もなく男の子は「きぃー」と奇声を上げ、お母さんを困らせます。でも、お母さんは声を荒げずに根気強く子どもに何を食べようかと問い掛けます。

しばらくすると「子どもビール」と訴え始めました。周りで大人がビールを飲んでいる状況の中では当然の主張だったのでしょう。「子どもビールって何だ？　何と生意気な子どもだ。」と、私はグラスを持ちながらそちらを見てしまいました。そのときです。重い空気の中、私の連れ合いが男の子にニコッと笑いながら手を振りました。男の子はびっくりしたようにはにかみ、入店時とは別人のように穏やかな表情になりました。親子で煮詰まっていた空気が見知らぬおばちゃんのお陰で一変してしまったのでした。そして、お母さんとの会話を楽しみながら、子どもビールは飲まずに食事を済ませ、店を出ていきました。子どもと周りの大人の関係について考えさせられた一瞬でした。

だいぶ前になりますが、粟島を訪れたときに地元の人から聞いた話を思い出しました。「この島じゃ、大人も子どももない。みんな一人前の人間として協力して生きていかなければならない。大人は子どもを見下してはいけない。子どもも力を発揮しなければならない。そういう土地なんだ。」

私たち大人は、子どものことを大人になる過程の未成熟な存在だと決めつけてしまうことがあります。成長過程にあることは間違いないことです。しかし、子どもはその成長過程の中で今を真剣に、精一杯に生き、力を蓄えています。

学校での日々の学習の様子を見ていてもそう実感します。古町のたんぽぽふれあい広場のオープニングセレモニーで「子どもたちにもできる地域活性化」の話をしたのもこの実感によるものでした。大人以上に純粋で、本質を問い続け、納得しなければ動かない。納得すればまっしぐらに取り組む。子どもたちは決して見下される存在ではないのです。

私もそうですが、決してたどり着かない人格の完成に向って歩み続けている子どもたちを応援したいと思います。

冬休みに入ります。区切りの年末年始の時期を迎えます。それぞれの家庭や地域で認め合い、支え合いが溢れ、休み明けに一回り大きくなった子どもたちと出会うのが楽しみです。

子どもビールに乾杯！